

- 田無公民館 南町5-6-11 TEL 461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
- 柳沢公民館 柳沢1-15-1 TEL 464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
- 芝久保公民館 芝久保町5-4-48 TEL 461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

- ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 TEL 424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
- 谷戸公民館 谷戸町1-17-2 TEL 421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
- 保谷駅前公民館 東町3-14-30 TEL 421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

平成22年度 講座参加者の声

今年度も公民館主催講座を数多く開催し、多くの出会いや発見の中で学びを深めました。各館の6事業について参加者に報告記事を執筆していただきました。

柳沢公民館

外国人のための「生活に役立つ日本語講座」

村田 怡蓉

私は日本へ来てもう3年になりますが、公民館で日本語を習うのは初めてでした。娘の映恋が10ヶ月ぐらいの時に日本に戻ったのですが、親戚も友達もい

なかつたのでとても寂しかったです。

しかしある日偶然、柳沢公民館の日本語講座に出会い、毎日が変わりました。

保育付きなので、映恋が産まれてから一日も離れたことがなかった私にとって、この講座は自分の勉強に集中できる貴重な時間であり、またとてもリラックスできるひとときでもありました。

そして人見知りな映恋にも友達ができ、私のいない間に保育室の中で、楽しい時間を過ごすことができました。

この講座のおかげで娘も成長したと思います。母親の私にとっ

てすごく嬉しいことです。また私にもいろいろな友達ができ、身近に住む日本人と交流することで、金

曜日だけでなく、よく日本語を使うようになりました。



▲柳沢公民館・外国人のための「生活に役立つ日本語講座」

この講座に参加して本当に良かったです。

田無公民館

ブログ講座に参加して

小駒 彩子

「いつか自分を捨ててしまえばいい」と、文章のコツを教えてもらった時思いました。

みんなが慌ただしい毎日を送る中、無名の私が書いた文章を、欠点を補いながら読んでくれる人なんて、多分いないでしょう。このことでした。そんな、読む側からしてみれば、当然すぎる前提を考えてもいなかったのです。

文章の批評の後、「コツを踏まえて書いてみることにしました。文章で私がバテてしまっているから、宿題の提出は本当に気をもみました。

なんとか逃げちゃおうかな、なんていけない想いも浮かびましたが、担当の職員さんや一緒に受講している皆さんを思い、なんとか立ち向かう事ができました。

今の時代この文章を読みたい人がいるだろうか？先生だったから、この表現はなんて批評してくれるんだろう？ちょっと締め切りが迫られる人気作家の気分が味わえたかもしれません。

書いたからお金が貰える訳では無いけれど、自分の書いたものを人に読んでもらって楽しんでもらいたい、そんな書くという行為のわくわくさに、ハマっていました。

ひばりが丘公民館

アカペラでハモるPart2

昆野 克則

僕たちは視線を交わして、大きく息を吸った。そして……。

講座初日、僕は太りに打ちのめされていた。集まった人々は、何と経験者の方が多かったのがある。全くの初心者である僕は、ひどく萎縮したスタートを切る

こととなった。それでも結果として、僕は練習に違い続けることができた。それはひとえに講師や仲間の支えがあったからだと思う。言葉にすれば実に陳腐な表現だが、本当に親身になって頂いたのだ。今回のような温かい環境がなければ、間違いなく僕は挫折していたことだろう。

こうして僕はアカペラ講座の一員のまま、本番の日を迎えることができた。しかし発表にについては余り多くを語れない。ここでどれだけ文字を費やそうとも、あの時のハーモニーを表すことはできないからだ。聴いていた方々にだけ届くものがあつたと思うし、歌っていた僕らにだけ湧き上がるものがあつたと思う。音楽とは世代や境遇を超えて響くものだといつことを、その時は確かに実感していた。

一つお知らせをして、この文章を締めくくりたい。この度、本アカペラ講座はサークルとして正式に独立をすることになった。その名も、「アカペラ西東京ハミングバード」である。まだまだ小さな羽ばたきに過ぎない僕たちだが、逆にアットホームな活動になっていけるとも言える。全パート大募集。新たな仲間を登場を期待している。

芝久保公民館

カードゲームで体験した

松尾 久恵

エコバッグは必携、こまめな消灯は当然、と環境問題に関心のある参加者が3チームに分かれて始まったカードゲーム。1チーム300万円以内の予算で、カードに書かれた省エネアイテムに買い換えたり、買い足したりして節約効果を競った。

参加者はほとんど女性だったせいかわ、どんとエコカーに買い換える、というのではなく、予算と相談しながらアイテム選びの結果3チームともほぼ同じアイテムが並び、効果も似たり寄ったりとなった。その後CO2の排出量や費用



▲ひばりが丘公民館・アカペラでハモるPart2 「ひばりが丘フェスティバル」にて

谷戸公民館

「未来をつむぐ・ママ時間」

池田 亮子

公民館でこんなすてきな講座をしていることをたまたま立ち寄った図書館の入り口で知りま

けた。ちひろ美術館のお話を聞けるんだ。と喜んでいたらそのあとに続くまちかど保健室の先生方のお話も魅力的で西東京市は暮らしやすい街だなと思える